

旭川市在宅医療及び介護連携推進検討会
「看取りの場面」ワーキンググループ次第に係る意見照会結果
(令和6年度(書面会議))

議題1 「看取りの場面」検討ワーキンググループの取組について	
A委員	多職種の困っている事や悩んでいる事などの話が聞けて面白い取り組みだと思いました。初めは「看取り」と限定したことで難しくなるのではないかと感じましたが、看取りだけではなく人生の最後に向かっていく過程について話し合えたことが、大変に有意義な内容でした。
B委員	多職種の取り組みや事例を知ることができ、研修会では法律的な視点からの講演も聞くことが出来ました。ガイドブックは必要な時に、タイムリーに手に取りやすいように出来ると良いと思います。
《回 答》 事務局	この度は、令和6年2月に始まりましたワーキンググループにおきまして、長きにわたり貴重な御意見を賜り、ありがとうございました。 ワーキンググループでは様々な課題が洗い出されたところではありますが、住み慣れた地域で不安なく最後まで過ごすことができるよう、引き続き課題解決に向けて取り組みます。 併せて、ACPの普及・啓発を始めとした本市における取組を、市民や関係機関の皆様にも広く周知してまいります。 ガイドブックにつきましては、議題3でも触れておりますが、広く市民の皆様のお手元に取っていただける工夫を検討してまいります。

議題2 「あさひかわ安心つながり手帳」について	
A委員	安心つながり手帳はとても良い案だったと思います。続けることでより周知され広がっていく良い事業だと感じています。窓口でも提示して頂ける様に声掛けをしたいと思います。
C委員	現状維持でやむなしと思います。つながり手帳はじわじわと浸透はしていると思いますので、現状の評価を行いながら、今後再検討するのが良いと思われます。
B委員	医療DX等が整備されたとしても、災害時等に備えて、必要最低限の情報が分かるものが手元にあることは必要だと思います。
《回 答》 事務局	あさひかわ安心つながり手帳につきましては、これまでどおり配付事業を継続しつつ、全国医療情報プラットフォームの整備など国の動向を注視しながら、新たな活用手法について検討してまいります。 検討を進める際には、災害時等の場面における活用も含め検討します。

議題3 「在宅医療・介護ガイドブック」について	
A委員	イラストやおおきな文字でわかりやすく丁寧に記載されていると思います。自分たちの職種だけでなく、多職種について記載されているところが勉強になりました。患者様にも見て頂きやすい内容だと感じています。
C委員	ガイドブックを本人と一緒に見たり記入したりする人がいれば良いのですが、そうでなければ、有効活用が難しいと思われる為、私達も努力が必要と感じております。
B委員	ガイドブックは読みやすく、連絡先等もわかりやすく記載されていて良いです。 「わたしのこれから」シートは、気軽に取り掛かりやすい仕様となっているところが良いと思います。エンディングノートも紹介されていて、さらに深めたい人は次のステップに進みやすいと思います。
《回 答》 事務局	在宅医療・介護ガイドブック、及び「わたしのこれから」シートを御確認いただきありがとうございます。ガイドブックの増刷に当たり、読みやすさ向上のため、この度本市保健所と改めて文言等の整理を行ったところです。 さて、このガイドブックは、在宅医療・介護の普及啓発のため、医療・介護の各専門職が、患者様（利用者様）へ手渡すことを想定しているもので、各専門職の皆様におかれましては、引き続きガイドブックの配布に御理解、御協力いただけますようお願い申し上げます。 また、ガイドブックはこれまで本市総合庁舎や各支所で配架し、また講演会やパネル展示等で配布してきました。御指摘のとおり、これらの配架場所からお取りになった場合、専門職等のフォローは期待できない場合もあることから、引き続きどなたが見てもわかりやすいガイドブックの作成に努めてまいります。

議題4 旭川市における「看取りの場面」の評価指標について	
A委員	まだ旭川では、自分の最後を決めるのは「家族」や「周囲の人」が多いと感じています。人生の最後を迎える場所は自分で選択できる旭川市にしたいと思います。
B委員	指標案のとおりで良いです。
《回 答》 事務局	今回の指標案につきましては、地域の課題の分析や事業の進捗状況を確認するための指標を中心に策定したもので、御指摘の内容は、「看取りの場面」における取組の結果、どの程度目指す姿に迫ることができたかとする内容かと存じます。 「看取りの場面」においては、後から本人に聴取することが不可能であることに鑑み、取組結果を示す度合いとしての指標の設定をせず、家族や医療・介護関係者からの意見聴取を中心とした課題把握を進めることができるよう、まずはその機会の設定を検討してまいります。

その他意見	
A 委員	弁護士の富田先生とのコラボも面白い企画でしたし視点が違うと沢山の意見が出たように感じました。他にも、作家さんやマスメディアの方や病院関係の方（事務方）など色々とお話を聞いてみたいと感じました。
《回 答》 事務局	御意見ありがとうございます。 多職種連携の重要性が示されてから久しいところですが、今後は、関係者向け研修会等において、幅広い職種からの講演等の検討を進めてまいります。
B 委員	バイタルリンクも併用して進めていただいたところが良かったです。
《回 答》 事務局	バイタルリンクについての御意見ありがとうございます。 今回のワーキンググループでは、バイタルリンクを用いたことがひとつポイントであり、大きな話題にはなりませんでしたが、多職種連携において大変有用であることが確認されたところです。 一方で、サービス提供事業者において導入率はあまり高くなく、浸透しているとも言いきれない状況が続いており、今後の課題といえます。
D 委員	資料に関しての意見はありません。高齢者 1 人 1 人の人生に関わる医療・介護などの関係者が必要とするツールが完備出来て行くのが安心できました。 特に A C P はその人の思いをきちんと受け止めて、思い通りに人生を終わらすことが出来ればいいと思います。 A C P が当たり前の時代に突入していると実感します。このワーキンググループに参加して得た知識を活用していきたいと思います。 今回のワーキンググループは、医療・介護の立場でたくさん話が聞けて良かったです。 今後、在宅で生活する高齢者、在宅で看取る高齢者がどれほどいるのかわかりませんが、最後を自宅で・・・と思う方の支援を今後も続けていきたいと思っています。
《回 答》 事務局	御意見ありがとうございます。 「看取りの場面」における本市の目指すべき姿として、「医療及び介護関係者が、人生の最終段階における本人及び家族の意思を共有した上で、本人が、自ら望む場所でその人らしく不安なく最期まで暮らすことができています。」を、令和 5 年度の検討会を経て設定したところです。 今般、令和 6 年度の診療報酬改定もあり、今後はますます A C P が浸透していくものと思われますが、市としても後押しできるよう、住民に対する A C P の周知啓発のみならず、医療・介護の皆様にも御理解いただけるよう、旭川市保健所の協力を仰ぎながら、研修会等の開催等を検討してまいります。